

問 1 - 4

栽培技術の安定、機械のリース
導入費などの助成、収益が低かった時の補償
農繁期における臨時労働力の仲介
作物を選別する際、自分家の小屋、格納庫には作物をおけるスペース、選別出来るスペースがないので場所の提供があれば嬉しい
玉ねぎの残さ処理について個人での処分には限界があり、行政の手助けが必要。JAは加工用の取り扱い中心の考えであるが、やはり生食による高収益化が絶対必要。
金銭面、技術面、人員面のサポートの充実
保補
カボチャの推進。田んぼで新規3年間補助出す。
商品価値向上への広報（メーカーとのタイアップ等）。機械導入のための助成
労働力の安定供給（人夫の手配）
補助金支給。技術指導。
自己以上の考えがあれば参考にしたい
行政の支援
機械等の導入費などに助成してもらいたい
情報提供
特区を設置し機械の共同利用の促進。品質管理による大潟村ブランドの創成
労働力の確保。機械の共同利用（以前の豆類のような体系）。排水対策への助成
作業機械に対する補助金の充実を計る
機械レンタルの充実
買い取り価格の保証
栽培技術を指導できる人材の確保。たまねぎや花き等の施設園芸にしても指導できる人がいない。農家が栽培について基礎的な勉強をしたときにそれ以上現在わかる人がいない
機械の導入費用の補助
機械導入等への助成
機械導入等生産費用のコスト低減になる補助や助成
ハウス団地に水がないのでメロンなどができない。ノズルがつまる水しかない
ブランド力
機械のリース
新規投資への補助等
もっと村全体で玉ねぎをアピールしてほしい
農協にかぼちゃの自動選別施設ほしいです
販売ルート確保
農業機械や作業機導入への補助
排水路の整備。いくら暗渠をやっても排水路の水位が高かったり流れが悪かったりしては意味がない
出荷資材等の負担を期待します。

メロンに関しては再度ブランド化をはかってPRをし今より高く売れるようにしてほしい

機械のリースの充実。除草等の人材。

経営が安定するまでの各種支援の充実

機械の安リースを検討して欲しい

問 3 - 3

除草（主に）の機械が不十分な為
人手が無い、コストの割に合わない
収入に不安が有る（米価の下落）
人手と技術の不足のため
除草機はさすがに骨が折れます
労働力が不足している
除草が大変だから
販路、人手がない
大規模での生産を優先、高収益作物の取り組み済である
手間がかかり、やっていく自信がない
経営的に持続可能ではない
人員確保がきびしい
食べる人が少ない。価格が高い。農家的にも消費者的にも県の援助が必要（お金）
高齢、後継者無し
大変さを知っているから
労力不足
環境保全型と同じ
労働力不足。主食から加工米への転作により。
大面積での経営に適していないため（手間がかかりすぎる）
雑草養分収支など問題が多い点。取り組むための技術が不足。
雑草対策が大変
除草等の労働力の確保。病害虫。
技術と手間がない
労働力不足
近所の田園で取り組んでいらっしゃいますが、年々労働問題や雑草の多種化新たにイボクサの群生に悩まされる
日本人の何割しか有機栽培のものを食べないと思う。安全より価格で選ぶ人がほとんどだと思うから。
労働力不足。コストがかかりすぎる。
有機が広まって有機栽培農産物が増えれば有機の農産物の価格の下落も考えられる。安定供給という面でも不安が残る。
栽培する手間がかかる。品質や生産量が不安。
労働力がないのと周辺の人夫さんがいなくなっている。有機農業はどうしても人手が必要だから。
以前取り組んでいたが労働不足で取り組めなくなった
現状、収益性が低いため
生産労働コストに見合わない。世界的な需要の高まりがあっても現時点で国や県がその後押しをする（できる）とは考えにくいから
慣行栽培で手いっぱい
労働力不足、マーケットで有機農産物が出店され価格に旨みがない

後継者が関心を持たない
無肥料、無農薬の栽培で結果が出ているので
体力がない
現在も化学肥料や農薬の使用は最小限に留めていますので
栽培管理が大変
雑草対策が困難なため。育苗が難しい。
人手不足と栽培技術がないため
労働力不足と有機農産物の販売代金（10a当たりの収入額）の相場が分からない事と、どの程度引き合いがあるのかも分からない点
労働力不足
日本はヨーロッパと異なり放牧地が少ないので10万ヘクタール拡大は無理があると思う
労働力、人。
今までやってきたが人手が足りない等
手間がかかるから
労働力不足。コスト増
コスト面で割に合わない。大潟村のような大規模な稲作はターゲットが異なる。現在それほど需要があるとは思わない。
手間がかかり面積を増やすのが大変だと思う
手間がかかる
国の決める有機農業は全てが環境に良いわけではない。人的コストがかかりすぎる。
労働力がない
手間がかかる
雑草対策が難しい
あまり大変
労働力不足
労働力不足、除草機等機械の購入費用が高い
手間の割に高く売れない
興味はあるがいずれ全員有機や無農薬をやるようになった場合、コストばかりかかって付加価値がつかない気がする。有機が善で、慣行（農薬）が悪という風潮が気に入らない。
人手不足
技術無し
雑草対策がたいへん
栽培技術がない
コストに合わない。持続出来ない。
手間がかかる。
労力が足りない為
大変だから
労働力不足
労働力不足
米価との割合。経費がかかる。

問6-3

個人ではもう限界がある気がするので、機械のリースや共同利用の取り組みをすすめてほしい
海外での大潟村ブランドの創出
宣伝
田畑複合経営の高収益化を画る必要な機械、設備、技術支援が重要
作物における20%の付加価値化
田んぼでかぼちゃ
高収益作物の推進
ブランド化。セールス
米価が下がるのであれば引き上げは難しいと考える。パックライス工場など見込のある事業に補助など。
高収益作物への転換推進（村だけではなく国、県、JAと連携する必要あり）
米をやめる。麦、大豆の一大穀倉地帯にする。
米以外の産出額を引き上げる取り組みを推進してもよいのでは。
売上高や高収益作物の作付面積に過度に焦点を当てすぎず、農家が経営するために必要な「手元に流動資産がどれくらい残るのか」という考え等も考慮し廃業せず生き残る農家を育む環境を作っていただきたい。
高収益作物への取り組みだと思うが自分には向かう気持ちがなない。農産加工品の開発。
10年前も同じ質問に村では輸出拡大をはかって実現するとしていたが未だに実現出来ていない。答えはない。加工米制度（2万円/10a）助成の継続要請。多収穫技術の普及。
玉葱は良い例。他にも方法が。
高収益作物への取り組みを導入する
自分は自信ありませんが、高収益作物に取り組むことかと思えます
高付加価値化（有機米など）と高収益作物への転換するため、農機導入などへの助成
外部へのアピール。内部の調整
高収益作物の機械購入の助成。労働力確保。
作業機械に対する補助金の充実を計る
米以外の高収益作物の産地化
栽培技術の向上できる施策（ものが作れなければ売上も増えない）。やる気があっても何をすればいいかわからない農家のたくさんいると思います。そういう農家を技術的にも経営的にも勉強、サポートできる施策がほしい。
農業経営者の農業技術の向上を計り見栄えの良い農産物を多く産出して貰える農家が出て来るよう務めて貰いたい
大潟米のブランド価値を高め差別化すること
品質向上によるブランド化
高収益作物（玉ねぎ）への取組の支援
誠実、正直、謙遜。足るを知る
小麦に代わる加工品に米がどんどん増える様になればいいと思う
持続可能な農業経営への振興支援
高収益作物導入に必要な機械への助成

方向性は今の形のままで良いので支援の強度を上げてほしい
村内の農業機関団体の連携をもっと密に。村職員は現場への理解が不足している。村職員は農業団体へ足を運び学んで欲しい。
たまねぎを成功安定させてから次の段階へ。パックライスに推進。
加工品、営業、県立大の力を借りる
ブランド化による単価増。現状では青森産あきたこまちと大潟村産あきたこまちは同等（岩船産こしひかりと南魚沼産こしひかりより劣る）
高収益作物への誘導
ネット販売に取り組む。動画を使った農産物の宣伝
有機農産物や高収益作物の販路確保
農作物（畑作物）の産地化
労働力の確保
必要とされる農産物を作る
農業の基礎となる耕作地の整備やそれに係る施設の整備に積極的な支援を行うべきである
米以外の作物の充実
他の産地にはない品目を探してブランド化する。冬に栽培できる品目に力を入れる。
米依存からの脱核
手っ取り早く目標達成するには高収益作物への転化ですよね。ただ米の収益が落ちているので先行投資が中々できないんじゃないでしょうか？他の作物を作るにしても固定費はわりとかかると思うし後時間、コストを考えても技術の向上も時間がかかりますと思います農家の人が二の足を踏む問題を少しずつでいいので改善する事が（時間はかかりますが）うまく行く道な気がします。
米以外にもハウス園芸などの栽培者が増える取り組み
高収益作物の取り組み
新規就農者など村外からのやる気ある人材を増やし村内に刺激を与える
高収益作物や有機など付加価値の高い農業生産と経費の削減
大規模農業法人は機械購入も個人から共同、そして経費も削減化
引き上げもいいが環境保全に関する取組をもっと進めていくべき
個人農家が新しい取組を行う事への支援。多様な農業経営のスタイルを確立させるような技術面での支援。

問6-4

村が一つになっての米作り、米販売をすすめてほしい
交換分合の話し合いを主導し、圃場分散を解消して農業者の生産性を高めること。ハウス団地にWi-Fiを整備し、IoTによって遠隔地からの育苗管理を可能にすること。
法人経営よりも個人経営の良い所を発信する
排水堤防にかかる費用の低減法を考える
かぼちゃの推進
情報提供
「食」の大事さをアピールし村外県外からの往来を増やし「農業」をもっと身近な感覚を持たせて「大瀧村」の特殊な環境もアピールし農業従事や移住促進につなげていくこと
村は農業者が農業を続けていけるよう今後も補助をお願いしたい。
担い手、後継者の育成、若手農業者への支援（例えば若手後継者が新規に高収益作物に取り組んだ時の補助等）
畑作に大きく舵をを取るために、新規の人だけではなく継続年数に応じて予算を割りふる。
農業の複合化などを検討してもよいのでは。高収益作物（たまねぎ）など。
米価は下がり、税金や機械は上がっている。そのため補助金の創出が必要。
今まで以上に環境、エネルギー問題と絡めた振興策が必要。消費者への産地アピールが増々重要になると思う。
後継者育成。
資金援助。規制緩和。
実転作青大豆等に更に思い切った水田活用交付金を実施することによって主食用米から切替が出来るのではないかと思う。主食用米価格決得のためには如何かと思う
初期投資への助成
とにもかくにも労働力の確保、または機械化（スマート農業への推進と助成）
自治体存続のためにも2世、3世が安心して営農出来るよう施策恵夫行ってほしい。早めの情報公開等。
全ての根本には村民の豊かなくらしというものがあると思うが世界的にも各産業においてもいままでの資本主義（自由な競争）に限界が見えはじめている今もう一度何のための政策なのか立ち返って議論していく必要があるとは思う。SDGSの名の元に結局競争を続ける姿勢のまま常に右上に昇るグラフを描いてはうまくいかない時代になりつつあるのかなと感じる。
売上を上げる栽培技術を指導できる人を確保して育てていけばまだまだ産出額も上がると思います。
持続可能な農業モデルのPR
担い手後継者が就農しやすい環境作り
人手や機械の不足や余剰を村民が共用出来るシステムの構築
国に対して農業産出額に対する農業予算の割合や農業所得に対する「直接支払い（税金）」の割合を諸外国並みに少しでも近づく様な陳情活動
世界一の稲作地帯を目指すビジョンの構築、それに伴う自治体の進化（人口増加）
どこかにかたよらない農業振興

県立大を核とした学園都市を目指す
子育て世代の移住、定住促進（農業従事者としての）
村外から農業をやりたい人に来てもらうしくみ作り（農地、住宅の提供）。2～3 haでも成り立つ農業の確立（農家戸数も増えて自治体としても良い）。住み継がれるだけでは先細りになる。
若年層への農業を理解できる宣伝
周辺市町村との連携による集約化、高収益化
労働力の確保
水田の多目的利用（作目）
特定の業者への支援や特定の規模の農家への支援ではなく農家全体の底上げとなる取組をするべきである。村では住民の考えについてアンケートの調査を基としているが農家一軒一軒に直接会って意見を聞いた事があるのだろうか？田んぼやハウスなどそこで働く農家に直接会う事はあるのだろうか？
体に負荷がかかる作業が多いので、いかに体に負荷がかからないか考えてほしい
婚活
経営体、営農組織設立への誘導。大規模化及び少量多品目もしくは農産加工等個々の経営へのサポート（偏重しない方が良い）
利益が増えるより損失が増える方が痛みとして心に残ります。農家の人達がいきいきと農作業に取り組めるように安定的な収益確保と保障がもっと増えたらいいと思います。中高年層が多くなってきているのでリスクを取るよりは安定性を求めていると思います。
有機農業の推進
家族の労働力のフル活用（高収益作物）。配偶者が村内外で働いていただく（収入の確保）。
加工品や特産品、付加価値のあるものづくり増やすためJAや企業などと協力し取り組む。村内でまだ使える土地があれば整備し利用できる様にする。地産地消の場を増やす。飲食店を増やす。
村の方針の一本化
新規で機械導入出来なければ新しい取組は出来ない。導入補助等を進めて欲しい。
米の高付加価値生産販売。米以外の作目生産体制の整備。
村長がもっとリーダーシップを発揮して欲しい